



オレンジリボンを作る生徒たち＝11日、新宮市立城南中学校

活動通じ温かい気持ちに

城南中でオレンジリボン授業参観

新宮市

新宮市立城南中学校（中田善夫校長）で11日、各学年を対象にした「オレンジリボン」の授業参観があった。保護者たちが見守る中、生徒らは児童虐待などへの学びを深めた。

オレンジリボンキャンペーンは2004年に栃木県で子どもが虐待を受

け、命を奪われた事件をきっかけに始まった。同校では5年目になる取り組み。

会場となった体育館には4日の文化祭で教職員や保護者から集まった子どもたちへのメッセージカードが飾られた。森浦展行教諭が授業を進行し、市主任児童委員の勢

古啓子委員長らが見学に訪れた。

2年生の授業では森浦教諭が社会運動に対して支援や賛同を表す「アウエアネス・リボン」の色と意味を説明。生徒は協力してオレンジリボンのバッジを作り、カードにメッセージを記入するなどして学んだ。

勢古委員長は「学校で虐待について考える機会を設けてくれてありがたくもあり、貴重なこと。人にはさまざまな事情が

あると思いますが、将来に生かし成長していったほしい」。

森浦教諭は「気持ちを受け取るだけでなく、思いを返すことを知ってもらおうと取り組んでいます。祖父母や兄弟、保護者の方々に向けたメッセージが多くありました。大人への第一歩として歩み、温かい気持ちになるきっかけになってもらえれば」と話していた。

（榮本康人）